

第110回 令和7年10月24日（金）

昨日川和高校からプロ野球のドラフト指名選手ができました。ここがスタートラインですから最善の決断ができるように自分でしっかり考えて、周囲の声を気にせずに焦らずに成長してほしいと願っています。おめでとうございます。今日は「同じ」という幻想について。

流行の服を着ていないと何か言われてしまう。そう思ったことがある人も多いかと思います。例えば細身でピッタリした服がはやったかと思えば、いつの間にかダボダボの服が流行したりします。そして流行にマッチしていないと恥ずかしいような印象さえ受けてしまいます。

これは売り手側の戦略ですよ。時代遅れを作り出しているようで、実は1周まわって昔の流行が復活したりします。

そもそもなぜ同じようなスタイルをしなければいけないのか。もちろん個性を強く持っている人もいますが、多くの人は「出る杭は打たれる」の「杭」になりたくないという感覚があるのかなと思います。

「みんなこの服を持っている」という言葉の「みんな」は実は3人だという話があります。道で3人同じ格好をした人とすれ違くと、自分が違くと不安になるという実験からそういられています。

鶏の鳴き声は日本では「コケコッコ」。欧米では「クックドゥードゥルドゥー」です。このオノマトペでわかることは日本人と西洋人の感じ方の違いかもしれませんが、もしかしたら本当に違う音で聞こえているのかもしれません。

もうすぐ紅葉の季節ですが、「赤い」という色はみなさんすぐに浮かんでくると思います。でもおなじ紅葉を見ても、本当に同じ「赤色」を認識しているのかはわかりません。目も脳も違うのですから人によって見え方が違うことも当然あり得ます。

人間が二人いたらまったく一致することなんてあるはずがないのです。その違いを認識しつつ「みんな違ってみんな良い」を理解することから多様化の理解が始まります。

他人と意見が合わないなんて当たり前です。大事なことは自分の意見だけが正しいと思わないこと。そんな考え方もあるのだなと受け入れたうえで刷り合わせをしていくことです。

「みんな持っているから買って」と小さい子がゲームをねだったりすることがあります。親は「みんなって何人？」と返したりします。すると「みんなって、みんなだよ」と言うようなお決まりのやり取りがあります。

「みんな持っているのかもしれないけど、だからあなたが持たなきゃいけない理由にはならないでしょ。人間はまったく同じではないのだから」と思います。